

『男女共同参画に関する市民意識調査報告書』について

男女共同参画審議会委員の意見・感想等まとめ

1. 男女平等に対する意識について（問1～問3/P19～P32）

感想・意見	第3次プランに期待すること・アイデア
<p>「男性優遇」という意識は以前からあったが、コロナ禍で顕在化したように感じる。学校教育は効果が出ているが、実社会に出たと男女不平等の壁にぶつかり、挫折感を味わう人も多いようだ。</p>	<p>女性を取り巻くさまざまな偏見や社会通念・慣習・しきたりなどを改めるための実効性の期待できる方策を一つでも多く考えたい。 仕事中心から家庭中心へ価値観の変容を促す。</p>
<p>男尊女卑的な考え方は、年々薄れてきていると思いました。 若い年代ほど男女平等と感じていることがわかりました。</p>	<p>主夫をしている方や、男性で家で親さんの介護をしている方のお話が聴いてみたいです。</p>
<p>「男女が平等に近い」のは学校教育の場の3.15であり平等が分かりやすい場のようです。分かりやすい理由は、学校からの情報発信や学校経営公開の場が多いということではないか。</p>	<p>①家庭生活の場から⑧社会全体の場において、情報公開や公開の機会や場を多くしていくことで男女平等に対する市民の意識や生活様式が培われていくことを期待する。</p>
<p>田舎で生活している私は、地域での週間、しきたり、〇〇まつり、〇〇様等の参加の仕方も、結婚して40年になり、随分変わってきて、女性の負担は軽減されている。見方を変えると、今まで地域で大切にしてきたもの（歴史的）にも、継続はやはり必要だと思う。やり方を変えて、引き継いでいかななくてはならないことだろう。</p>	<p>—</p>
<p>まだまだ男性優位の意見が多く、私もそう思う。男性しか出来ない仕事が多いのも要因のひとつなのは。</p>	<p>多くの分野で、平等の意識を持つことが重要である。</p>
<p>教育の場においては、確かに男女平等ではあると思います。でもまだ、職場、法律や制度は、男性の方が優遇されていると感じます。 社会全体を見て、まだまだ男女平等とは言えないかなと思います。</p>	<p>—</p>
<p>地域の福祉ボランティアなどでは女性の活躍が目立ち、地域の伝統的な行事では男性が活躍しています。調査のとおりだと感じます。男女を区別することなく、それでうまく地域活動が回っているような気がします。 すみわけができていてみんなが生き生きしています。男女平等意識は根付いてきたのでゆっくり改革していければいいと思います。</p>	<p>女性は社交的でいいのですが男性はどうも人づきあいが不器用で困ります。男性が積極的にボランティア活動をできる何かがあればいいのですが、まだ男性は役目でやっているように感じます。男性高齢者の意見を聞いてはどうですか。</p>

<p>意識については時間の経過とともに解決していくと 思っている。</p> <p>今後、平等で当たり前という世代が多数派とること で、意識としての平等が当たりの社会の実現はそ う遠くないと考えている。</p>	<p>—</p>
<p>—</p>	<p>—</p>
<p>男性側だけでなく、男女双方の意識が変わらないと 男女平等は実現しないと強く思う。</p>	<p>—</p>
<p>教育に携わる立場として、②の学校教育の場が「男 女が平等に近い」と考えられているのは、学校教育 の方向が正しいと言われているようで励みになりま す。しかし、「社会通念・慣習・しきたり」の数値と 隔たりがあるところが問題点ではないでしょうか。 根深い課題であるので、意識改革への啓発が必要で ある。</p>	<p>基本目標 1 の施策 3 を継続する。 啓発後にどんな対策をとったのかをつかみ、よい 事案を広めていくとよいのではないか。</p>
<p>特に男性の場合、最近の風潮に合わせて常識的に写 るよう回答するという意識が強く表れていると思 います。男女の格差は必然とか仕方がない事と心 の中では思っている、アンケートではそう答えな い人は、きっと女性の中でも結構な割合でいて、な かなかアンケートでは現れない、と感じます。</p>	<p>時代は変わっても、混在的意識が男女の不平等の 大きな原因であることは変わらないのでは、と思 いますので、そのあたりの本音を聞き出すのと同 時に、そう考える根本となる原因を見つけ出すよ うな「意地悪」な調査を取り入れてはいかがでし ょう。 いまさら不要かもしれません。</p>
<p>学校の教員や公務員などは、職場でも「男女共同参 画」の話を聞きやすく、理解もあると思います。 逆に田舎ゆえ、地域活動の場や、しきたり、政治の 場など、今まで男性がメインで、女性が補助的に行 ってきた行事は、伝統を重んじるという形で、変え るのは難しいと思う。</p>	<p>地域活動、社会活動のみしか、世間と関わること のない高齢者にも、分かりやすい形で、「男女共 同参画」の意味を伝えることができれば…と思い ます。 公民館などに貼るポスター、高齢者が見て「これ は男性優遇だ！」と、理解しやすいキャッチコピ ー、川柳などを作る。</p>
<p>女性は全ての回答で男性が優遇されていると答え、 男性は女性よりも全てに男女平等寄りの回答結果で すが「優遇」という言葉が気になります。「優遇され ている」の根拠を明確にしないと改善出来ないと思 います。</p>	<p>—</p>
<p>「政治の場」「社会通念・慣習・しきたり」について、 「男性が女性より優遇されていることに注目しまし た。 P.20 のグラフが重要（全体像がわかるため）</p>	<p>P20 のグラフをもとに検討してはどうか？</p>

2. 家庭生活・結婚・家庭観について（問4～問6/P33～P68）

感想・意見	第3次プランに期待すること・アイデア
<p>男性は仕事、女性は家庭という意識に変化が出てきていることはよい。</p> <p>家庭生活における具体的なこと、食事の支度、掃除、子どもの世話、洗濯、自治会やPTAのことなど、男女の不平等感が依然として存在している。</p>	<p>家庭の時間、自分の時間を確保できる労働環境の改善。</p> <p>理想とする家庭生活について互いに理解を深める。</p> <p>夫婦「共働き」と「共家事」の推奨。</p>
<p>子育て世帯は大変だけど、共働きで、家事も分担している家庭が多いのかなと思います。</p> <p>子育ても夫婦でとの考え方が多くて良い。</p>	<p>周りの人が子育て世帯への理解をしてあげることが大切だし、急に何かあった時にも身近に子供を預けられる場所作りも大切だと思います。</p>
<p>今後、価値観がさらに多様化していくことはさげられないが、平和で持続可能な人間社会を築いていくための見方や考え方を義務教育の内に身につけさせたい。</p>	<p>とりあえず何をするか、具体的な一歩前進となる動きや目標を考えたい。</p> <p>瑞浪市独自に「男女共同参画の日」という日を設け、それぞれの職場や家庭において、できることやできたことを考える取り組みを行う。</p>
<p>家事、育児に対して、私たち(60代)の時代と思うと、随分男性が協力していると感覚的に感じるだけで、現実的には、まだまだ女性の負担が多くなっている。社会的、仕事の面でも女性の活躍が進まないのは、女性の方がまだまだ家事、育児、介護等に時間を費やしている。</p>	<p>男性が育児などに積極的に参加するためには、職場（物的、人的環境）の理解を進めること、そして、本人（男性自身）の抵抗感をなくすこと。</p>
<p>夫婦共働きが多く、お互い役割分担しているのは良いことだと思う。</p>	<p>子供を作りやすい世の中になることを祈る。</p>
<p>家庭生活においては、絶対ではなく、その家庭その家庭のやり方、ルールでいいのではと思います。もちろん、子育て、家事を男性に協力してもらえたら助かるのは当然ですが、核家族も増え、いろんな夫婦、家庭のカタチがあつていいと思うので、ここは男女平等にこだわる必要はないのでは…と思います。</p>	<p>—</p>
<p>家庭生活の中で男性女性の区別はなくなってきていると思うし、子育て世代の男性は積極的に参加して優しい男性が増えたように感じます。</p> <p>古いかもしれませんが母性にはかなわないと思います。</p>	<p>家庭の中で女性が占める仕事の割合が極めて多く、それに甘んじている男性が多い。もっと家庭での女性の立場を尊重しないといけない。アイデアはないけれど、家庭の日を母親の日ぐらいにして大切にしてほしい。</p>
<p>—</p>	<p>—</p>
<p>年齢からなのか、家庭生活の中では多少男女差があると感じる時がある。特に、体調がすぐれなくても無理してしまうことがある。若い世代は無いかも知れませんが。</p>	<p>—</p>

<p>育休を取得する男性が増えていると聞くが、数日とか1ヶ月とかでは、それで育児ができたのかと思う。家にただけであまり役に立たなかったという方も聞く。子どもを二人で育てるという意識が大切。</p>	<p>—</p>
<p>「男性は仕事、女性は家庭」という意識は、10年前と比べると大きく変わってきている。結婚や出産に対する価値観も多様になってきている。女性の現状と理想に大きな隔たりがあることをもっと周知させ、改善を図りたい。</p>	<p>—</p>
<p>ほぼ想像通りの結果ですが、それでも家庭における男女の役割の意識は、想像を超えて変わりつつあると感じました。</p>	<p>家族の理想像の決定版？はどんなものなのか知りたいので、世代別の家族の理想像の違いがもっと知りたいのと、その中でも普遍的なものが分かるといいかな、と思います。</p>
<p>20代～30代のカップルでは、仕事も子育ても2人で力を合わせて、親の介護も、男も女も関係なく、協力し、話し合い、思いやい…と、テレビドラマも多くなっている気がします。なかなか結婚観を変えることができないのは、40代以上ではないでしょうか。</p>	<p>家庭や結婚は、昔の、男は仕事、女は家庭という性別によるくくりにより、得意な人が得意なことを存分に伸ばせる生活が理想。生まれもった男、女の性は関係なく、誰とでもパートナーになれて、得意な仕事をして、子育て、介護はプロに助けてもらう…とすれば、ストレスは少ないのでは。</p>
<p>親の介護について、介護される側の意見も聞いてみたいです。自分が将来介護を受ける時に誰に介護されたいか？それが叶えられる社会になりますように。</p> <p>理想と現実の差について①食事の支度。各々が育ってきた環境だと思います。男性も食事の支度という社会を築く為に、今の子育て世代から男子も食事の支度に関わる機会を作っていけば20年後の社会は変わっていると思います。</p>	<p>—</p>
<p>問5 (P43～P45) 家庭での男女の役割について現状と課題について、「現状と理想」の比較に関心を持ちました。</p> <p>項目ごとの「現状と理想」(P46～P66)のデータをさらに分析してみたい。</p>	<p>世代ごとの「現状と理想」をもとにプランを策定してはどうか。</p>

3. 生活の中での優先度について（問 7～問 9/P69～P72）

感想・意見	第3次プランに期待すること・アイデア
<p>「2」を支えることとして、「仕事と生活のバランス」は大切で、柔軟性のある働き方が選択できる社会への期待は大きい。</p> <p>仕事も家庭もすべて 100 点というのは欲張りだと思ふ。まわりの人々の理解と協力を得て、そのときどきで、充実した生活がおくれるようにしたい。</p>	<p>ワーク・ライフ・バランスのとりにやすい社会制度や企業の制度。まわりの人々の理解と協力の得やすい社会づくりの推進。</p>
<p>どうしても仕事を優先しなければいけない状況であることがわかります。</p>	<p>子育て世帯の方は有休が足りないなど問題があると思います。</p> <p>フレックス制度が全体に浸透すると良いと思います。コロナで在宅勤務やフレックスなど支障がなかったのなら継続できる気がします。</p>
<p>仕事と家庭生活と（地域個人の生活）を共に優先したいという希望が大きくあられ、仕事優先の現状であることもあられて大きな差が出ているが、ここに目を向けない。</p>	<p>仕事と家庭生活を共に優先できているのが全体で 24.1 ある。希望との差もあるが 24.1 は大きな割合と考えたい。両立できている理由にヒントが見つかるのではないか。</p>
<p>—</p>	<p>—</p>
<p>仕事優先の意見には納得です。</p> <p>特に子育て世代は仕方ない。</p>	<p>もっと給料が上がれば。</p>
<p>女性が働くことに難しさを感じる理由の多くは、「子ども」です。学童不足、長期休暇の子どもの預け先など、働きたくても、そこを考えなければいけないのが、必然的に女性の立場になってきます。だから、世のお母さん方は、もっと仕事をしたいのに、こういったことを考えると難しいのかなと思います。</p>	<p>夏休み、春休みなどの長期休暇の時に、学童以外にも子どもが安心して通える場所づくり、地域ぐるみで子どもを見守っていけるといいかと思ひます。こども食堂など、瑞浪の飲食店に協力をいただいで、何か夏休みなどにできないのか。</p>
<p>賃金は高く、休暇は多くは無理なので自分の生活に適した労働環境を探してそれを優先して共働きができるように生活設計していかないといけないのではないか。</p>	<p>賃金も大事かもしれないが、社会活動、生涯学習の充実などを図ってゆとりのある生活がほしい。</p>
<p>男女間の賃金格差は家庭生活の優先度と比例しているように感じる。例えば、育休も給与の高いほうが休業すると収入に影響する等、一例に過ぎないかもしれないが、現実的なところ、様々な場面で収入の低いほうが時間的融通を利かせる実態があることは否めない。</p>	<p>—</p>
<p>仕事をしていると、家庭生活が優先できないこともあり、家族の協力が必要だと思ふ。</p>	<p>—</p>
<p>問 7～8 は、意味のない質問のように思える。</p>	<p>—</p>

<p>希望と現状が大きくかけ離れている。</p> <p>それぞれ優先したいものが違ってよいが、本人の望む生活ができ、希望と現状の数値が近くなるよう取り組み、これからも経年経過をみたい。</p>	—
<p>理想と現実のギャップが想像を超えて大きいのが驚きでした。現実が厳しいのか、理想が高すぎるのかどちらでしょうか。そのギャップは要するに現実への不満と直結していると思います。以前なら、ギャップはあきらめという形で埋まりましたが、今は、理想＝期待ということでしょうか。</p>	<p>ギャップを埋めるために努力しているか、あきらめているか、努力しているなら具体的にどんなことか、等々知りたいです。</p>
<p>本当は誰でも仕事より自分の生活を優先したいと思います。</p> <p>仕事しないと生活が苦しいので、仕事優先になるだけだと。</p>	<p>ベーシックインカムを、月 5 万でいいから実行できれば、もっと、すべてにおいて余裕が出る気がします。</p>
<p>仕事と家庭の両立が難しいからこそ、男性は仕事を優先し女性は家庭を優先するという役割分担の社会が生まれたのかなと思いました。</p> <p>問9の理想の社会像、労働時間短縮、休暇を増やす。言葉にするのは簡単ですがその分収入も減り生活が苦しくなるのではないかと思いました。男女賃金格差は仕事の量や勤務時間、正規非正規雇用などとても難しい問題だと思いました。</p>	—
<p>問 9 (P71～P72) について、企業等への情報を提供してはどうか？</p>	<p>「仕事と家庭を両立」するための条件について、各企業がどのように対応しているか、3 次プランで調査することを加えてはどうか。</p>

4. 女性の働き方について（問 10～問 14/P73～P80）

感想・意見	第 3 次プランに期待すること・アイデア
<p>女性が職業を持ち続けることは、社会全体にとっても大切。103 万円とか 130 万円とか壁があるようですが、働くことによって個性や能力を発揮し続ける人が増えることを期待する。</p>	<p>育休・介護休にかぎらず、有休をしっかり取りやすい職場環境をととのえている企業を増やしたい。</p> <p>男女共に、家事・育児について高いスキルと意欲を持った人の育成に力を入れたい。</p>
<p>自分がどうしたいのかが大切だと思います。</p> <p>もちろん家計の問題もありますが…。</p>	<p>本当なら、自分で子育てしたいけれど働かなければいけない状況にある方がいらっしやと思います。</p> <p>何か、その方への金銭面の支援があればいいと思います。</p>
<p>数年前から育児短時間勤務制度ができたが、出勤時刻も退社時刻（退庁・退校）も働きやすさの支える</p>	<p>早朝から学童を受け入れる学童保育事業者がでてきており、女性目線のニーズをよく捉えての柔</p>

<p>環境になっている。</p> <p>学校においては、周りの職員の理解や協力があることで、育児短時間制度を利用する者の精神面での働きやすさを更に支えていたように思う。</p> <p>また、任せる仕事内容の質も働き方の重要な支えになる。職場の活気づくりとなるようにしたい。</p>	<p>軟な発想であることが分かる。女性が働きやすくなるには、女性（家庭）の現実的なニーズに応えていく新事業の提案や支援を行っていくとよい。</p>
<p>公務員の女性の育児休暇は3年、2人目、3人目を出産して引き続き休暇を取り、10年近くの長い間の育休が保証されているが、まだまだ一般企業での育児休暇は1年程度である。職種に限らず、平等に育児休暇が取れて、育児休業中の保証をする。</p>	<p>—</p>
<p>女性の働くべきだし、不平等とは思わない。</p>	<p>育休、その後のプランの充実。</p>
<p>女性が働くことに難しさを感じる理由の多くは、「子ども」です。学童不足、長期休暇の子どもの預け先など、働きたくても、そこを考えなければいけないのが、必然的に女性の立場になってきます。だから、世のお母さん方は、もっと仕事をしたいのに、こういったことを考えると難しいのかなと思います。</p>	<p>夏休み、春休みなどの長期休暇の時に、学童以外にも子どもが安心して通える場所づくり、地域ぐるみで子どもを見守っていけるといいかと思えます。こども食堂など、瑞浪の飲食店に協力をいただいて、何か夏休みなどにできないのか。</p>
<p>女性も仕事を持ち続けてほしい。仕事を持っている女性はキラキラしています。</p>	<p>—</p>
<p>「ずっと働くという意識」が第2次策定時よりずっと上がっていることが率直にうれしく思う。</p> <p>非正規も正規も同じアンケートの中なので区分がわからないが、正規雇用として働く上での男女平等を検証する必要があるのではないかと思う。</p>	<p>非正規でずっと働くという人と、正社員でずっと働くでは求める平等論の違いが浮き彫りになり、必要な施策もよりきめ細やかなものになると考える。</p>
<p>結婚後も女性が無理なく働けることが望ましい。気兼ねなく、休暇が取れると良い。</p> <p>子育て支援も充実してきましたが、幼稚園、学校などの環境が不十分なので、男性も働き方改革が必要なのではと思う。</p>	<p>—</p>
<p>私自身も出産で仕事を辞め、再び就職したので、それぞれの考えにもよると思うが、仕事を続けられる環境であれば続けたかったと思う。</p> <p>長期の育休を取得しても、復帰の際の条件が変わらないと良いと思う。</p>	<p>—</p>
<p>「ずっと職業を持ち続ける方がよい」が60%を超え、20年前と比べると2倍以上になっているので、意識が大きく変わってきていることを感じた。</p> <p>「子どものために職業をいったんやめる」が30%</p>	<p>育児は、女性だけの仕事ではない。夫婦や家族で育てていくことへの啓発をする。</p> <p>子育て支援の充実が望まれる。</p>

であるので、育児は女性の仕事という考えがまだある。	
どうして職場で女性が冷遇される傾向があるかといえば、それは雇用する側が女性を雇う方が不利、と考えているからに外ならず、育休などを含め、男性がより女性と同じようになれば自然と男女格差は無くなると思います。	男性の協力なしで改善は見込めないことですが、雇用する側にとっても（よく言う「会社側」にとっても）大問題です。企業側の努力を求めるだけでなく、中小企業も含めて実現できることや、それを進めることのメリットが示されるといいと思います。アイデアはあるのでしょうか。
—	女性の賃金、昇給、昇進の男女間の格差と、男性の育児休業の充実ができれば、女性でも、得意な仕事で長く働き続けられることができるのでは。
男女とも働きたいという希望があるのは良いことで、保育所、学童施設をどんどん充実させて男女関係無く仕事ができる環境を作るべきだと思います。ただ、働く理由が何かを知りたいです。仕事にやり甲斐を感じたり、社会に貢献する為に働きたいのか？働かないと生活が成り立たないから働くのか？では意味が違う気がします。	—
問 13 (P77)「男性の方が育児休暇や介護休暇をとりにくい」24.8%のデータに注目しました。 問 14 (P79)「賃金・昇給・昇進・昇格等の男女間の格差解消」について、女性が高いポイントとなっています。	企業等への具体的な働きかけを明記し、調査も進めていくことはどうか。

5. 地域活動・社会活動について（問 15～問 18/P81～P87）

感想・意見	第3次プランに期待すること・アイデア
地域・社会活動への不参加は、「生活にゆとりがない」とか「活動に関心が薄い」「わずらわしい」などが考えられる。	70才、80才過ぎた人たちの地域・社会活動でなく、若年層（特に女性、子ども）を巻き込んだ楽しい活動が仕組まれることも有効かと思う。この地域（市、町）に住みつづけたいと思う街づくり。
自分の地域では神社と公民館の掃除がありますが、大体、男女半々くらいです。 気付きの目線が、半々だと上手くいく感じがします。	どこの地域も高齢化していて実際に班長など無理な方もいます。自分も出来なくなった時、お世話にならなければいけないので地域で決めて給料制にした方がいいのではないかなあと思ったりします。
コロナ過において地域活動や、社会活動に参加する機会や場が減少したことで、働く世代や子供たちが地域で交流できる体験がなくなっている。特に働く世代にとっては、地域社会の一員となる活動や時間	働く世代が参加しやすい地域活動・社会活動を考えたい。働く世代が役割を担えるような地域のしくみづくりを推進していきたい。地域力の向上をめざす。そのためにまず何から取り掛かるのかを

を過ごすことは、仕事の多忙感や家事育児介護の負担感への共感や支えも生み出す。	考えたい。
瑞浪市の人口は減少しているようだが、若い世代の人たちが家を建てているが、その地域での自治会や町内会等に入らない人もいるようなので、自治会等の活動参加の前に、自治会、町内会にすべての市民が所属する必要があるのでは。	—
仕事優先の考えから、なかなか地域・社会活動まで手が回らないと思う。	難しい。
—	—
女性の「70代が活動したい」は理解できるが、男性の「20代が活動したい」は意外でした。男性の地域自治活動も積極的な参加でなく、「役なので」、「頼まれたから」が多いような気がする。	男性の退職高齢者などの参加を促すため、自然環境保護や防災活動など地域に根ざした活動に参加してもらえようような組織づくりが大切である。
—	一人世帯が増えている。地域活動や社会活動として役割がさらに大きくなってくると思うので、市としても是非力を入れてほしい分野である。
—	—
正直なところ、自治会の役員などは面倒なことも多いので、区長に男性が多いことに不満はない。それではダメかなとも思うが…。	—
—	—
まちづくり協議会の会長として、なかなかショッキングでもあり、やっぱりなど、という結果です。どうすればよいでしょう。	地域活動や社会活動に参加するメリットは「よろこび」ぐらいで、これだけではきっと「損」を埋められないのでしょうか。参加しないことが「恥」と捉えられ、しないことこそ「損」と感じるための方策を考えないと難しいと思います。さらに参加すると「得」になる精神的以外のメリットを考え出せば。ボランティアポイントとか、役を引き受けると将来年金がアップするとか。そんなアイデアを募ってはいかがでしょう。
地域活動や社会活動をしてみたい！と思っても、仕事や子育て世帯は時間がない。よって、高齢者が多い場所は、「男女共同参画」が受け入れられにくい。	公民館講座で、「男女共同参画」川柳や、落語など、おもしろおかしく伝えて、高齢者に理解してもらおう。
社会活動、地域活動は、やりたい気持ちがある人がやれば良いと思います。仕事が忙しい、参加したい活動が無い、関心が無いが全体の6割ですがそれで良いと思います。 問18について「男性優位の組織運営」とは具体的にどの部分を指すのかが出てこない改善にもな	—

らないと思います。	
社会活動の参加について、女性の参加が男性よりも低い結果となっている。 社会活動へつなぐ場づくりが必要なのではないかと思います。	自治会、町内会以外の社会活動の場を広報することはどうか。

6. 介護について (問 19/P88)

感想・意見	第3次プランに期待すること・アイデア
介護は「男女ともに」が理想。 すみやかな介護認定により、介護のプロを活用し、家族の協力で「ぬくもりのある介護」を実現したい。	介護になる前の手厚い支援により、介護状態になる人を少しでも少なくしたい。
共働きで介護しなくてはいけない時は、男性女性関係なくお互いの仕事内容を理解しながらやれる人がやることになると思います。	地域連携が大切だと思っているので、2025年以降の地域包括ケアシステムの動向に注視していきたいです。
—	—
女性が主に担当するものというイメージがあるし、また現実的にもそうであると思うが、今の世の中、社会的サポートも充実してきている。それでも、目に見えないところで介護は、やはり女性が中心となっているが、アンケートの数字からの分析と、人が人を介護するという心情的な、数字では表すことができないところでの男女平等を求めることに困惑する。	—
男性も女性もすべきだ。	介護支援の充実。
—	—
我が家でも91歳の母を、妻が介護している。大きなことはいえないが最近では男性が介護しているケースを耳にしますし、妻に対して近所の方から無理はしてはいけないとの声で気が楽になった、と言っている。社会的にも男女間の差はなくなっているように感じる。	老々介護の時代に突入。これからは施設の充実と多様性が求められるのではないかと。介護度ではなく家族の介護支援度を考えないといけなくなっている。
—	ともに介護をすべきであるという意見を実現するためには介護は公的支援（介護保険等）を上手に利用することが重要である。公的支援のPRが課題であると考えます。
介護に対しては、身内が協力して行えばよいが、女性も勤めていたり、家族では無理な状態もあり、施設などのサービスを利用したいが、空きがない等困っている家庭もある。	—
男女ともに介護にかかわるべきだと思う。	—

同性の介護の利点もある。	
「男女ともに介護をすべき」が 60%を超え、圧倒的に多いが、実際に介護している大半が女性と言われているので、そこに矛盾がある。	男性が介護の担い手としての自覚がもてるような啓発活動や、体験する機会を増やすとよい。
こちらも理想と現実のギャップに驚かされます。よく考えたら、うちも私の親なのに女房がほとんど担当しました。	一番根本的な男女平等に対する理解に比べ、女性が介護すべきという考えが多いことが「本音」を暴露しているような気がします。そう考える理由や根拠をもっと掘り下げたら、本質的な問題がもっと見えてくるのではないのでしょうか。
高齢の男性は、子育ても経験しておらず、子育てや介護こそ「相手の望んでいることを想像する」能力が必要だから無理だと思う。	⇨ とはいえ、女性にすべての負担がかかるようだとそれも違うので、プロのお任せするのが一番だと思う。 介護職こそ、一番の高報酬にするべき。
介護される側の意見が尊重される社会を望みます。	—
男女の回答の差が 14.5 ポイントあるが、社会的支援のあり方への対応についても関心があります。	介護について、どのような社会的支援があるのかについて、男女共に学べる場が必要なのではないかと。

7. 人権について (問 20～問 24/P89～P99)

感想・意見	第3次プランに期待すること・アイデア
性別や年齢で人を判断せず、互いを尊重しあえる人間に成長するように努力する。 「女らしさ」「男らしさ」といった「性」を極端に出し、「性」を売り物にするような風潮は慎みたい。	セクハラ・暴力など性被害・性犯罪にあわないための教育。 性被害を受けた、受けそうになったときの対処の仕方や相談窓口の拡充。
自分の思いとしては「LGBT」自体が偏見だと思っていて、周りが理解を示し、そっとしてあげてほしいです。	実体験された方のお話を聞くことが大切なのかなあと思います。
職場においても家庭においても、皆が一人の人間として大切にされ、その人の個性や能力を発揮できる機会や場を作っていく。機会や場をつくることに互いに協力しあいたい。学校では、どの子もより良い暮らしを作っていくための役割を受け持っており、社会の縮図を作り出しています。	人権についての取り組みは、市ぐるみで今後一層の充実が求められます。人権擁護委員の活動においても、市内幼稚園の人権教室の回数を増やしたいと考えています。それぞれの立場で具体的にとりあえず何をおこない一歩前進させるか。その積み重ねの風土を市内に啓発していくことを期待する。
「男は仕事、女性は家庭」固定的な役割分担が 64.3%と半数以上である。男性も 59%と半数以上をアンケートで答えている。この問いが、人権が尊重されていないと思っている。個人の固定的な意識の解消が求められるが、意識を図ることは・・・だから、アンケートでは感覚的な答えで判断すること	—

になるのですね。	
セクハラは随分無くなったと思うが、DVはあると思う。	救済窓口の充実と地域の目配りが必要。
—	—
男は仕事、女は家庭などという言葉は70代でも死語。セクハラや家庭内暴力は犯罪。人権の問題ではない。	この問題は語りつくされ、一般的に犯罪扱いであり男女間の差別ではない。
固定的な役割分担は意識の中に刷り込まれている概念でもある。が、既に言葉には出せない世の中となっており、ハラスメント等と同様、時代の変化により、表向きはなくなっていくと思う。 ただし、内心の問題は人間が感情の動物である以上、形を変え、ずっと課題として残っていくのではないか。	—
—	—
男女ともに役割分担についての固定観念は強いと思う。	—
「男は仕事、女は家庭」といわれる、固定的な役割分担があると感じている率が高く、女性の働き方で、「ずっと職業をもつ方がよい」と答える方が大半であるのに、まだまだ古い考えが根深い。	—
種々のハラスメントについて、私自身も無頓着であったことをおおいに反省する内容です。	講座や講演会、ハンドブックの作成は大きな効果がある事業だと思います。どんどん増やしていくべきだと思います。
男女間だけでなく、子どもからお年寄りまで、誰ひとり、傷つけたり、思い通りに支配してはいけません！！	—
問4で「男性は外で働き女性は家庭を守るべきか？」の問いに対して「そう思わない」が83%。問20では「男は仕事、女は家庭」という固定的な役割分担があると思うかが64%。	—
問21(P91)「セクシュアル・ハラスメント」に関する設問に対して、「自分が直接的経験したことがある」という女性が、22.4%となっています。	セクシュアル・ハラスメント及びDV根絶に向けて具体的な施策をプランに明記したい。

8. 性的マイノリティについて (問25～問28/P100～105)

感想・意見	第3次プランに期待すること・アイデア
100%理解することは難しいかと思うが、努力することは大切。 更衣室や公衆トイレについては、女性の思いを大切	理解を深めるための学習と広報・啓発活動を行う。

に聴いてみたい。	
性のあり方自体、特に男性はこう女性はあるべきという考え方はやはり年齢と関係があるのかなあと思っています。若者のほとんどは固定観念がないと思います。	実際に困っていることを広く発信して理解を求めていくことが大切だと思います。
中学校において人権作文コンテストに取り組む活動により、多くの生徒が考えを深める機会となっている。成果がある。	まず、考える機会や場を作ることで啓発が進んでいく。
意識調査をした人の中に、性的マイノリティの人がいたか？性的マイノリティの理解は必要だが、人権を守る啓発も必要である。当事者がセクシャリティーを明かせないことで精神的負担を感じている部分のアンケートの数字も高い。自分とは異なる人々の存在を認め合うことができるためには？	—
まだまだ偏見があるので、もっと理解ある世の中になると良い。	学校から、偏見しないという教育が必要。
—	—
周囲にいないのでわからないが、個人の個性なので尊重してあげたい。	生きやすい社会ができればありがたい。近くにいたら特別扱いしないようにする。守ることはしない。
—	—
—	—
性的少数者の存在を認識してはいるが、私自身が理解できていない。かと言って、それを否定するものではない。	—
以前より性的マイノリティについての周知が図られていたが、理解はまだまだであると感じる。同性同士のパートナーを認めていくこと、不利益をなくす必要がある。	—
日本の社会で昨今一番理解が進んだ課題だと思いますし、アンケートの結果も如実にそれを物語っています。ただし、誰もが不快に感じないような、という段階にはまだ遠いと思います。トイレ・更衣室問題も含め、いずれかは解決できる気がします。	私自身、知り合いや友達で性的マイノリティであることを公言している人がいないので、頭ではわかっているけど存在を完全に理解しているとは言えず、正直なんとなく不快感を持ってしまう部分があるのは事実です。そういった方と話せるような場が設けられれば、と常々考えています。
—	男、女のくくりはいらないと思う。 人間であるか、それで、すべてのパートナーも選べばよいと思う。 人間として魅力があるか？がこの先の決め手。
問 27・28 について実際に当事者が抱えている問題	—

<p>を知ること必要だと思います。学校現場でLGBTQについて学ぶ時間はあるのでしょうか？</p>	
<p>社会全体の意識の高まりがデータへ反映されていると思いました。</p>	<p>3次プランでは、性的マイノリティについての確な施策をもちこんではどうか。(データをふまえて)</p>

9. 防災の分野について (問 29/P106~107)

感想・意見	第3次プランに期待すること・アイデア
<p>我が国は地震大国である。「災害は忘れたころにやってくる」トルコで発生した大地震をみると、決して他人事ではない。</p>	<p>市行政当局はもちろんのこと、市民をあげて日頃からよく備えておく必要がある。</p>
<p>災害に対する備えは、家庭で話し合ったり、地域の方との連携が大切だと思います。</p>	<p>災害が起こった時の手順を、誰もが分かりやすく絵などで1枚のポスターにさせていただいた物を市から配布して下さるとありがたいです。</p>
—	—
—	—
<p>災害時の避難所は、やはり女性に優しい設置をすべきである。</p>	<p>あらゆるニーズに対応するような準備が必要。</p>
—	—
<p>聞いていることが災害時に対応すべき個々の対応なので、女性らしい気配りが見えてきている。男性の視点は避難誘導、復旧作業などに目がむくので回答は自然な数字ではないか。</p>	<p>一般の男性が踏み込んではいけない領域のような気がする。これからは災害時の細かな学習活動が必要になってくる。</p>
—	—
—	—
<p>災害時は非日常なので、全てを満足できる状態にすることは難しいと思うが、人権は守るべきです。</p>	—
—	—
<p>これは実際に災害が起こって避難したことがないので誰もが実感がわかないと思います。東北の被災地の避難所で実際にいろいろあった、と聞かされてもピンときません。が絶対に考えなければならないことだと感じました。</p>	<p>専門家の指導の下、備えることしかないことですが、災害が起きるかもしれないことを絶えず頭の隅に置くような指導体制が必要だと感じます。防災訓練の一部にこういった要素を含めたものを取り入れてはどうかと思います。(具体的には分かりません。これも専門家の知恵が必要です。)</p>
—	—
—	—
<p>問 29 (P106~P107)「災害復旧～計画に男女両方の視点が入ること」について、男性(23.9%)女性(14.5%)となっており、男性の方が高いポイントとなっています。</p>	<p>3次プランにおいても防災の項目を入れこみ、「女性の視点」を積極的に取り入れてはどうか。</p>

<p>と思いますが、結果を見るとまだまだ課題があるようです。今後は、具体的にどこに男女差があるのかをはっきりと示していかないと変わっていかないのではないかと思います。</p> <p>男女共同参画について初めて考える機会になりました。非常に難しい課題だと感じました。</p>	
<p>問 30 (P108) の回答と、現プランの施策のつながりはどのようになっているのかについて関心があります。</p>	<p>市民意識調査での声をいかに 3 次プランへ活かしていくのか、具体的に検討を進めていくことが重要なのではないかと。</p>

11. その他 ご自由にご記入ください。

感想・意見	第 3 次プランに期待すること・アイデア
<p>自由記述に貴重な意見を沢山いただいた。 市行政当局への厳しい意見もあり、アンケートに答えていただけた方々に誠心誠意応えていきたい。</p>	<p>男女共同参画推進に対する期待は大きい。その一方で、「1,000 人アンケートは不毛」とか「アリバイ作りですね」など、厳しい意見も散見される。男女共同参画を正しく理解していただき、少しでも前進できるように、第 3 次プラン策定に尽力したい。</p>
<p>自由記入を読ませていただいてすごく勉強になりました。 社会制度の改正や法制度の改正が求められる問題だと思いました。</p>	<p>職場により育休を取得しにくい状況があるようですが、本人も会社にとっても金銭面、精神面で負担にならない様に、本人 6 割、会社に 4 割、国からの補助があるといいです。</p>
<p>第 3 次プランの達成目標が明確であり、そこに至る過程の細かな短期の目標やその具体像（数値等）などが見えていると、方策が考えやすい。</p>	<p>とりあえず何をするか、現状を一步進めるためには、どうなればいいのかを、各項目や視点から考えたい。</p>
<p>男女共同参画社会が実現していくための方法のひとつとして市民意識調査が行われている。様々なアンケート項目の中で、環境、固定概念、地域差、性別、価値観など多様性のある回答である。今の自分の生活スタイル、ワーク・ライフ・バランスも、「これがふつう」、「当たり前」は人によって異なる。これもまた多様性と捉えることができる。自分とは異なる人々の存在を認めようと？</p>	<p>—</p>
<p>—</p>	<p>—</p>
<p>私は、現在子育て真っただ中です。(小 6、小 4、年長) 同じお母さん達から、こんなだったらいいなあ、こうだったらもっと働きやすいのになあ、といった意見をたくさん教えてもらいます。なので、子育てのしやすい街づくりを私はしていきたいです！！</p>	<p>—</p>

<p>それには、地域全体を巻き込んでやっていかなければいけないと思います。まずは、そのためにも、この審議会に、子育て真っただ中の世代の方に参加してもらったらどうかと思います。私のような母親の立場だけでなく、お父さんも子育てはしているので、ぜひ参加してもらいたく思います。もっと、若い世代の意見を聞いてください！！</p>	
<p>個人的には男女の格差を感じたことはないし、女性より男性の方が仕事ができるとも思っていない。女性の方が地域社会に溶け込み動かしているような気がします。認めたくはないが総合的に見て女性が勝っている。</p>	—
—	<p>女性が育児休業を取得して復帰するのが当たり前になるまでに約 20 年近くかかっている。男性の育児休業取得から復帰が円滑に、かつ当たり前に利用されるようになるためには、職場の環境整備が必須である。男性の育児休業取得の課題は復帰したときに、取得前と同じように働けるかということ。育児介護休業法で、現職復帰が原則となっているが、実態はまだ不安要素が多いところである。</p> <p>一方、こういった実態を男性社員が自身の育児休業取得、復帰を経験し、諸所実感することにより、女性の円滑な職場復帰や、その後の子育てに対する支援、施策も充実してくるのではないかと考えている。</p>
—	—
<p>男性の回答率が低いことが、そもそも意識の低さだと思う。</p> <p>この役を引き受けた時に、市役所関係へ勤務していた人から、「ああ、あの何にもならない会議ね」と言われた。そうなんだ～と思った。</p>	—
—	—
—	—
<p>我が家の 16 歳の娘が通う学校（通信制）も、子ども達も「男だから」「女だから」という枠組みをまったく感じません。今の時代は、できる人、得意な人がやるというスタンスです。</p>	<p>「男だから」「女だから」の枠を気にする人達は、高齢者（男性）が多い気がします。</p> <p>こうなったら、LGBTQ 川柳など、講座などで楽しくお伝えするしかないです。</p>
—	—

<p>自由記入（P133～P142）を読みこみました。</p> <p>（P133）男性（20代）→子の看護休暇の周知が必要です。</p> <p>（P134）女性（30代）→面接での対応が課題となっています。</p> <p>（P140）男性（60代）→3人の方々の回答に注目しました。</p>	<p>3次プラン策定後のプランの進捗状況について、市民とともに考える機会を持ってはどうか。若い世代の意識調査について、高校、大学と協力してオンライン（インターネットを活用）で実施してはどうか。</p>
---	--